

## 第一回 第三者評価委員会会議録

平成25年6月18日(火)

教育委員会室 18時00分

### 施策の方向1 地域から信頼される学校づくり

#### 目標1 一人ひとりの子どもに応じた指導により、確かな学力と豊かな人間性を育てます

##### 「個人学習プロフィール」の活用 (すみだ教育研究所長)

- ・ 個人情報管理に関して、成果もしくは課題に記載すべきです。(小松委員)
- ・ 「25年以降の取組」の表記の確認。「状況調査に取り組んでいく」ということですか？(佐藤委員)  
→「個人情報プロフィールに」取り組んでいくということです。(佐久間参事)
- ・ 「成果」の欄で、データ活用の具体的な中身を表記できますか？(佐藤委員)
- ・ データを送るようになったのは大きな意義があります。ただ、送られたデータの活用について学校差があるように思えます。課題の最後に、「・・・データ送受信時などの操作面と活用に関して改善の余地がある。」と修正してはどうでしょうか。(尾木委員)

##### 特別支援教育の充実 (学務課長)(指導室長)

- ・ データ蓄積をしっかりと行い、データの活用を図り絶えず特別支援の質の向上を目指すといった記載をすべきです。(小松委員)
- ・ 昨年度と比べた個別指導計画の作成状況は進んでいますか？(佐藤委員)  
→昨年度も同じ児童・生徒の約8割です。(指導室長)

##### PISA型学力・言語力の向上 (すみだ教育研究所長)

- ・ 「成果」欄に研究活動を通して授業改善が図られ、児童・生徒の言語力の向上が認められたとしっかりと表現していいと思います。(尾木委員)
- ・ インターネットによる学習教材は、具体的に記入できるのであればその方がわかりやすいと思います。(尾木委員)

##### 英語活動の充実 (指導室長)

- ・ 業者を変えた理由はなんですか？(佐藤委員)  
→4年間続けていることから、見直しの時期であると考えました。(指導室長)
- ・ 本区では、5・6学年でネイティブの方を入れているが、他区市では2学年くらいから行い成果を上げているところもあるようです。もっと下の学年まで派遣することを検討するという表現をしてみてもどうでしょうか。(尾木委員)
- ・ 「区独自教材」を具体例を交えて表現した方がわかりやすいと思います。(尾木委員)

##### 体力向上プロジェクトの実施 (指導室長)

- ・ 全体を把握していることから、1人1人の児童・生徒にとっても自分の状況を把握し理解することが出来る。このことを記載すべきです。(小松委員)

## 目標2 地域の特徴に合った魅力ある区立学校づくりを進めます

### 学校経営体制の確立 (指導室長)

- ・ 経営計画書とか経営評価書を改善したのであれば、それが経営改善に資するような内容になっていないといけない。それに基づいた経営支援が教育委員会からなされないといけないと思います。そういう取り組み状況はどうなっていますか？ (小松委員)  
→予算の問題もあり施策に反映するのは難しい状況もあります。(指導室長)
- ・ PDCA サイクルがちゃんと機能していないと経営改善が確立しているとは言えません。記載内容が第三者評価のことばかりになっているように思えます。(小松委員)
- ・ 小学校4校、中学校2校に第三者評価を実施する前提になるのは、全部の小中学校において経営計画を作成し、教育活動を実施し、自己点検評価・学校関係者評価を活かして学校経営体制の確立を図り、説明責任を果たした。それを踏まえてこの第三者評価を行った。そこは、きちんと記載すべきだと思います。(尾木委員)

### 日本語指導の充実 (指導室長)

- ・ 課題の「小学生にとって通級に要する負担も課題である。」と25年度以降の取組の南部地区の説明はつながりますか？ (佐藤委員)  
→つながります。南部にも日本語学級が出来ればいいという思いがあります。(指導室長)
- ・ 出来れば負担軽減するための方策について記述が出来るといいと思います。(佐藤委員)

### 区立学校適正配置の推進 (庶務課長)

- ・ 新施策体系の見直し確認【施策の方向1：目標3へ移動】(小松委員)
- ・ 事業の実施状況と成果と課題の順番が対応していません。成果欄の順番を入れ替えてください。(佐藤委員)

### 学校支援ネットワーク事業の実施 (すみだ教育研究所長)

- ・ 墨田区の場合、特定の分野の専門家の学校支援になっています。今後は、授業補助みたいな形の学校支援ボランティアも課題なのかなと思います。他の地域でも放課後の学習とかだんだん広がりを見せています。(佐藤委員)  
→放課後学習は別途、対応しております。すみだ塾という基礎力の定着と放課後学習クラブというところで発展的な学習ということで対応しています。ネットワーク事業は、あくまでも正科の授業の中で対応しております。(佐久間参事)
- ・ 成果のとこれで「新たな学びの体験など教育内容の充実・向上に資した」とあります。もちろん、それが中心ですが、私の感想としてはキャリア教育に係る教育内容に意味があったと思っています。そういう文言を成果に加えられるのであれば検討いただきたいと思います。(尾木委員)

### 目標3 よりよい教育活動を推進していくためのしくみづくりに取り組みます

#### 幼小中一貫教育の推進 (すみだ教育研究所長)

- ・ 幼稚園との一貫教育は、具体的にどんなことがありますか？ (小松委員)  
→幼稚園については、区立幼稚園で行っています。具体的には、学校に入学する際にスタートブックを全園に配布し幼稚園の中でも就学後のことをイメージした取組をするということと小学校と近いところであれば、お互いに授業交流等の連携をしているところです。(佐久間参事)
- ・ 一貫教育推進員は教員ですか？ (小松委員)  
→教員免許のない方もいます。学校の先生の一貫教育推進のため事務補助的な役割を担っています。(佐久間参事)
- ・ 三鷹市のような後補充のための教員というわけではないのですか？  
→そうではないです。(佐久間参事)
- ・ 今のところは交流とか連携の体系まではまだですか？ (佐藤委員)  
→検討の中では話は出ていますが、まだそこまで進んでいません。(小暮次長)

#### いじめ等防止の強化 (指導室長)

- ・ タイトルが「いじめ等の防止強化」となっていますが、いじめを防止強化するとともに不幸にしてそれが起こってしまった時の対策を墨田区はちゃんとやっていますという書き方をした方がいいと思います。「成果と課題」欄にはそういった内容が書かれているのでタイトルもそれに合わせて変えた方がいいと思います。(小松委員)
- ・ タイトルの変更は可能ですか？ (尾木委員)  
→可能です。(小暮次長)
- ・ いじめ等の防止強化というと事件性のある問題解決を取り上げている気がする。いじめ等の防止のためには、子どもたちの自己指導の力とか自分たちで集団を良くしようということが決め手となる。「いじめ等の防止及び健全育成の強化」というような表現に変えるべきだと私も思います。(尾木委員)
- ・ どこでも起こりうることなので起ってしまった時の事後対応をしっかり行うことが大事だと思います。(佐藤委員)
- ・ 「緊急避難的な転校」といった表現はいかにも被害者が転校しなければいけないといったように読み取れるので、この辺の表現は考えた方がいいと思います。もちろん、子どもを守り抜くといった観点は重要ですが、いじめを行った子どもに対してもこれは許されないことであるという指導が非常に大事です。それが、いじめ等の防止と健全育成のところにつながっていくわけで、その文脈はきちんとした方がいいと思います。(尾木委員)

#### 学校と図書館との連携強化及び子ども読書活動の推進 (指導室長) (ひきふね図書館長)

- ・ 調べる学習に必要なということでも本だけでなくいろいろな資料まで広げていった。このことは大きな成果といえるのではないのでしょうか。図書館の問題と読書活動は連動するのですが、今後は離れる部分が出てくると思います。今後は、調べる学習のことは評価できると思います。(佐藤委員)

#### 目標4 広い視野と高い指導力をもつ区立学校教員を育成します

##### 教員研修の実施

(指導室長)

- ・ 教員研修の実施内容として、メンタルヘルス、危機管理、防災教育等のテーマについてやっているのであれば成果として書いたほうが良いと思います。(小松委員)
- ・ 成果と課題の最後に、「・・・将来の管理職候補者の育成を図ることができた。」とありますが、裏づけのデータはありますか？(佐藤委員)  
→校長とのヒアリングの中でそういった話が出ているということです。(指導室長)
- ・ 本区でも経験年数の少ない先生が増えてきています。学習指導に関しても、生活指導に関しても、保護者対応に関してもその先生方が非常に苦勞していると感じています。このところで課題として、経験年数の少ない先生方の指導力向上に資する研修の充実を加えた方が良いと思います。(尾木委員)